

目次

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[表記法](#)

[説明](#)

[歴史上の事実](#)

[関連情報](#)

概要

Cisco Internetworking Operating System (IOS) は、インターネットワーキングに最適化された高度なオペレーティング システムです。Cisco IOS® は、時間の経過とともにインターネットワークをコスト効率の高く維持できる、統合的な原理を提供します。それはそれらがネットワーキングインフラストラクチャの内で展開するように変更テクノロジー (ハードウェア および ソフトウェア) に適応するために動的にアップグレードすることができるハードウェアから引き離されるソフトウェアアーキテクチャです。Cisco IOS はインターネットワーキング頭脳としてを複合体、流通網リソースおよび機能を管理およびコントロールする極めて インテリジェントな アドミニストレータ捉えることができます。

前提条件

要件

このドキュメントに関する固有の要件はありません。

使用するコンポーネント

このドキュメントは、特定のソフトウェアやハードウェアのバージョンに限定されるものではありません。

表記法

ドキュメント表記の詳細は、『[シスコ テクニカル ティップスの表記法](#)』を参照してください。

説明

Cisco IOS の初期のリリースは、基本的にルータ指向の、他に例のない強固なシステムへと成長しました。それは一組の手順として配列され、他のどの呼出すようにのプロシージャがします。この一体化された強固な構造では、データを隠す必要はありませんでした。オペレーティング コードのほとんどに構造および操作上相互依存がありました。

11.2 による Cisco IOS Release 9.21 はモジュラコンポーネントかサブシステムに Cisco IOS を設計し直す工学技術の成果を表します。階層の集合体とすることで、各サブシステムはそのシステムコードに対する独立したエントリポイントを持つようになりました。サブシステム自身は組み込み (カーネル) システム内のさまざまな機能をサポートする離散モジュールと定義されます。階層化されたサブシステムの設計により、Cisco IOS は、機能セットをさらに管理しやすく、容易にアップグレードできるように分割することが可能になりました。

Cisco IOS がポーティング対応に進化したことで、Cisco IOS 11.3 以降では、さらに容易に新しいプラットフォームにポーティングできるようになっています。モジュール性のより良いレベルのための Bulletproofing、シノニム、その他の機能の依存関係無しに少しと堅く定義されるべき割り当て Cisco IOS 機能またはサブシステム。Bulletproofing 割り当て Cisco IOS 機能/ソリューションは顧客要件にとりわけ開発されるために設定します。Cisco IOS が展開し続けるので顧客は固有の環境の必要条件を満たすために特定の機能を組み合わせられます。

歴史上の事実

- Cisco IOS 8.3 は 90 年代の前に最後の普及した Cisco IOS リリースでした。
- Cisco IOS 9.1 最初顧客は (FCS) 提供された 1992 年 12 月に。
- Cisco IOS 9.1(16) は Cisco IOS 9.1 の最後のメンテナンスリリースです。Cisco IOS 9.1 ユーザは、1995 年 4 月 17 日現在で、Cisco IOS 10.0(9) か 10.2(5) にアップグレードする必要があること通知されました。Cisco IOS 9.17 は販売 (EOS) および End of Maintenance (EOM) マイルストーンの端に達しました。Cisco IOS 9.17(16) は 9.17 の最後のメンテナンスリリースです。これ以上の機能がバグ修正は Cisco IOS 9.17 行に適用されるべきではなかったです。

詳細については、次のサイトを参照してください。

- [Cisco IOS ソフトウェア](#)
- [Cisco IOS ソフトウェア リリースのタイプ](#)
- [定義されるリリース指定](#)

関連情報

- [テクニカルサポートとドキュメント - Cisco Systems](#)